

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

激動する時代に「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」をモットーに、

学び続け、変わり続けることの出来る生徒を育てる学校をめざします！

本校は、「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」を合言葉に、前例にとらわれず「ゼロベース」で考え、失敗を恐れず、失敗してもくじけず、失敗から学んで何度でも立ち上がり、勇気をもって前を向いて一步を踏み出すことのできる生徒を育てたい、育ててほしい、と願っています。また、「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、論理的思考力・批判的思考力等の21世紀型スキルを身につけます。

① 「知的好奇心のかたまり」 ② 「ゼロベース思考」 ③ 「失敗を恐れないチャレンジャー」

こんな生徒を育てたい、こんな生徒に育ててほしいと願い、学び続け、変わり続ける全教職員が全力でクリエイティブにサポートします！

2 中期的目標

1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現

(1) 全教職員が授業改善に取り組み、アクティブラーニングを積極的に実践して、授業力を磨くとともに、生徒の主体的・能動的に学ぶ姿勢を引き出すことでジェネリック・スキル（汎用的能力）を育成し、進路実現をサポートする。

ア 総合的な探究の時間を用い、新しいアクティブラーニング型授業「探究」を開発実践し、21世紀型スキルであるジェネリック・スキル（問題発見&解決力、論理的批判的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、表現力など）を磨く。

イ 教員内に定着してきたICT活用を、今後情報委員会を中心としてICTの有効な活用方法について研究する。また、教職員間の意識改革などを通じて、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法を研究していく。

ウ 授業の質を高めることで学力の向上を図る。

※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いにフィードバックを行うことで授業力の向上を図る。

各自、自身の教科以外の授業見学も含めて、年2回以上の授業見学を実施 令和6年度まで継続する。

※授業アンケート評価全項目の平均値3.40を維持する。(R1=3.20, R2=3.27, R3=3.41)

※学力生活実態調査の学力指標GTZ (R1.9月:Aゾーン1.9%,Bゾーン36.3%,Cゾーン50.0%,Dゾーン11.7%、R2.9月:Aゾーン2.1%,Bゾーン48.1%,Cゾーン41.0%,Dゾーン8.9% R3.9月:Sゾーン=0.2%,Aゾーン=3.4%,Bゾーン=44.8%,Cゾーン=40.9%,Dゾーン=10.7%)を、令和6年度には国公立難関大学を狙えるAゾーンを3%に、中堅校を狙えるBゾーンを40%に、Dゾーンを10%以下にする。

※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校(国公立・関関同立)、私立中堅校の合格者(R1=13人,125人、R2=12人,118人、R3=8人,151人)を、令和6年度に各20人超、150人超とする。

(2) 「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。

ア 図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。

※図書館の生徒貸出数(R1=376冊,R2=569冊,R3=668冊を令和6年度には880冊とする。

※高校ビブリオ西日本大会(R1現在6大会連続出場、R2中止、R3中止)、中高生ビブリオバトル大阪大会(R1出場、R2中止、R36大会連続出場)大会連続出場更新し、令和6年度までに大会決勝に出場することをめざす。

イ ソーシャルスキル(傾聴力、アンガーマネジメントなどエモーショナルリテラシー)やメディアリテラシーの育成

※教員向け各種研修を実施し(毎年3回以上)、また生徒向けにも実施する。

(3) 修学旅行の充実

ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。

※令和6年度まで実施後のアンケートすべての項目の最上位評価の平均75%以上(R1=75.7%,R2=75.2%,R3=80.0%)を維持する。

(4) 国際感覚を身につける。

ア オーストラリア語学研修の実施を継続する。

※継続的実施および発表の機会の充実をめざす。コロナ禍で実施できない場合には代替の取組みを考える。

2 安全安心な学校づくり

(1) 安全安心な学園環境を整える

ア 学校付近の厳しい交通環境の中、通学路における自転車事故ゼロをめざす。

※前年度より減少させることを目標とする。(R1=39件,R2=37件,R3=42件)

(2) 人権教育の充実

ア HRや総合的な探究の時間を活用し、他者を思いやる人権意識の向上を図る。

※学校教育自己診断(生徒)「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」(R1=72.2%,R2=75.8%,R3=87.1%)を令和6年度まで80%を維持する。

(3) 教育相談体制、サポートの充実

ア SC (スクールカウンセラー) と SSW (スクール・ソーシャルワーカー) を活用して支援体制をサポートする。

イ 支援が必要な生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。

※SC の相談回数を増やすとともに、本校独自に SSW を招聘し、定期的に SC や SSW のケース会議を開催

令和6年度まで SC や SSW の参加しているケース会議を年 10 回実施し、継続する。

(4) 地域連携や、部活動・生徒会活動の活性化

ア 地域に支持される学校をめざす。

吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ほか各クラブや、芸術科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒に、さまざまに活躍できる場を提供する。

イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR 活動、委員会活動、部活動をサポートする。

※令和6年度まで学校教育自己診断(生徒)「学校行事等が自主的に運営されている」(R1=81.2%, R2=81.9%, R3=77.8%) 肯定値 80%、「部活動は活発である」(R1=84.2%, R2=85.9%, R3=89.8%) 肯定値 85%を維持する。

ウ 学校説明会を充実させる。

※令和6年度に実施後のアンケートの最上位評価 80%にする。(R1=81.9%, R2=67.1%, R3=76.5%)

3 教職員の働き方改革

(1) 時間外勤務の削減

ア 月の時間外勤務 80 時間超の延べ人数を削減する。※前年度より減少させる。(R1=60人, R2=54人, R3=51人)

イ 教職員が効率的な仕事が行える環境を整えるための支援を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○生徒 18 項目中 12 項目で増加した。(ただし 18 項目のうち 2 項目は本年追加) 5%以上増加したものは 4 項目あり、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[生徒は交通マナーを守っている] 80.1→87.6% (7.5%増加) ・[学校の図書館はよく活用されている(授業等を含む)] 52.0→60.9% (8.9%増加) ・[先生は生徒を大切にしている] 81.5→86.8 (5.3%増加) ・[先生に悩み等の相談をしやすい雰囲気がある] 70.6→78.6% (8.0%増加) <p>減少となったのは 5 項目で、そのうち 4 項目は 0.10~1.3%の微減であったが、[授業はわかりやすい]が(82.2%→77.0%・5.2%減少)で大きかった。特に 1 年生の数値が低く、学力生活実態調査の結果も入学生徒の学力層の低下を示しており、対応した授業の工夫等が必要である。</p> <p>○保護者 15 項目中 6 項目で増加した。(ただし 15 項目のうち 1 項目は本年追加) 5%以上増加したものは 2 項目あり、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている] 71.1→84.4% (13.3%増加) ・[本校の PTA 活動は適切である] 79.5→84.9% (5.4%増加) ・[学校の行事等に参加したことがある] 27.4%と低い値になっているが、新型コロナで制限があった結果と思われる。[機会があれば参加しようと思う]が 71.3%と高い値になっており、次年度以降、学校行事等への参加要件が緩和されれば参加が期待できる。 <p>○教職員 31 項目中 15 項目で増加した。(ただし 31 項目のうち 3 項目は本年追加) 5%以上増加したものは 12 項目で、そのうち 15%以上増加したものは 4 項目あり、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[本校は学校教育自己診断を教育活動に生かしている] 51.1→71.7% (20.6%増加) ・[学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている] 44.7→61.5% (16.9%増加) ・[学校運営に教職員の意見が反映されている] 38.3→66.7% (28.4%増加) ・[校長は教職員が意欲的に取り組める環境作りをしている] 34.0→50.0% (16.0%増加) <p>・大きく減少したものとしては、[本校は校内美化に努めている] 87.2→73.1% (14.2%減少) があり、数値を下げた要因が何であるか確認し、対応していく必要がある。</p>	<p>第 1 回 7 月 20 日(水) 開催</p> <p>○スクール・ミッションの再定義、スクール・ポリシー策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「金岡高校も学科やコースの設立など変更の議論になるのか」との質問が出された。 「金岡高校は、普通科として立地等もふまえて、地域から長年認知されており、中学生徒や保護者からも高い要望がある状況にあるので、今現在、新たな学科やコースの新設は考えていない。」と回答した。 <p>○自転車での登下校について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前の道が狭く、交通量も多く、近隣の小学校、中学校とも登校の時間が重なる。登下校時の交通マナーの順守について再度生徒に指導をお願いしたい。」との意見が出された。 「金岡高校では、学年ごとに時差登校を指導している。また登校時は、正門付近に教員が出て、見守り指導を行っている。下校時は生徒によって時間が異なるので見守りは難しい。自転車の交通マナーについては引き続き指導をしていきたい。」と回答した。 <p>第 2 回 12 月 16 日(水) 開催</p> <p>○スクール・ミッションの再定義・スクール・ポリシー策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「校訓の『克己』がスクール・ミッションにも反映されているが、金岡で生徒に身につけさせたい力の自己管理力に当たるので、それがよりわかるようにしてもらいたい。」とご意見を頂いた。 事前に頂いたこのご意見をふまえて、金岡で生徒に身につけてもらいたい 6 つの力の中の自己管理力にあたるものとして、わかりやすい表現に修正しました。 ・「校訓『克己』は、偏ると自分中心の考えになってしまう面もあり、対義語は『妥協』であり、今回の 2 つのフレーズ「金岡力」と「愛し愛され」の「愛し愛され」は協調性を大切にする意味があり、『妥協』と当てはまり、うまく両面で調和ができている。」と評価を頂きました。 <p>第 3 回 2 月 21 日(火) 開催</p> <p>○令和5年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす学校像が全面改定されているが、令和4年度までしばらく使われ、生徒にアナウンスしていた「ゼロ・プラス・ワン(0+1)」も発展継承してもらいたいとのご意見を複数の委員から頂いた。今年度にスクール・ミッションの再定義を行ったので、それを次年度のめざす学校像に移行期であるが反映させた。「ゼロ・プラス・ワン(0+1)」の意義は、最後の選択・設計・行動・実現に向けて進みだすことができる生徒の育成に込められている。今後、在籍生徒や中学生にもその意義が繋がっていることがわかるように努めていきたいと回答した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現	(1) 授業改善し、基礎学力の定着・進路実現を支援 ア 授業アンケートおよび ICT 活用による授業改善を推進 イ 生徒のデータによる状況把握と学習支援プランの作成と実践	(1) ア・全教員が他の授業を観察、助言しあい、授業見学シートを用いて成果検証を行い、教科会議等を通して改善点について全教員で情報を共有する(9～1月)。 ・教員が他校や教育産業の研究授業や研修等に積極的に参加し、自身の授業改善はもとより教科でも情報共有を行うことにより教科授業力の向上につなげる。 ・第1回の授業アンケート(7月)で個人のシートを用い各教員が課題を把握し、教科会議で教科シートの検討し、第2回(12月)での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ 進路指導部主導で学力指標 GTZ の分析をし、また、教科データにより各教科の弱点を各教科で把握する。進路指導部が成績を分析し、学年と連携をして3年間を見通した進路指導を行い、進路実現をサポートしていく。	(1) ア・校内授業相互見学を各自2回実施する。 ・進学に関わる教科を中心に計25回の研究授業や研修等への参加を行う。[9回] ・授業アンケート(12月)全項目の平均3.4を維持する。[3.41] ・学校教育自己診断 ICT 関連項目(生徒)の肯定値90%以上維持をめざす。[93.7%] イ・教育産業の学力指標 GTZ について 国公立難関大学を狙えるAゾーンは2.5% 中堅校を狙えるBゾーン以上は45%以上維持する。Dゾーンは10%以下を維持する。[9月:Sゾーン=0.2%,Aゾーン=3.4%,Bゾーン=44.8%,Cゾーン=40.9%,Dゾーン=10.7%] ・難関校(国公立・関関同立)の合格者12人以上とする。[8人] ・私立中堅校の合格者を120人以上とする。[151人] ・現役大学進学率52%をめざす[55.2%] ・進路希望実現率を80%以上にする。[84.1%] ・進学実績が向上している学校視察を年間2回実施する。	(1) ア・各自2回以上実施(○) ・研究授業・研修等への参加25回(○) ・全項目平均3.42(○) ・ICT肯定値91.9%(○) イ・Aゾーン 3.4→1.6% Bゾーン 44.8→35.6% Cゾーン 40.9→46.4% Dゾーン 10.7→16.4%(△) (9月・1,2年平均値) ・難関校合格者12人(○) ・私立中堅校合格者163人(◎) ・現役大学進学率58.0%(○) ・進路希望実現率93.0%(○) ・2回実施(○)
	(2) 「言葉のチカラ(言語技術)」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。	(2) ア 探究の授業での図書館の活用を促進し、図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。 イ ソーシャルスキル(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等)やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施	(2) ア・図書室生徒貸出数、R4≥700冊を目標とする。[668冊] ・高校ビブリオ西日本大会(7大会連続)、中高生ビブリオバトル大阪大会(7大会連続)出場 イ 教員向け研修、年3回以上実施[5回]	(2) ア・470冊(△) ・校内ビブリオバトル大会を2回実施したが、府大会出場者は出なかった。(△) イ 6回実施(◎) 1.救急法 2.SNS マナー 3.意見交換会 4.SSW 講演 5.教育相談①② 6.教育相談②
	(3) 修学旅行の充実	(3) ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。	(3) ア 修学旅行アンケート評価すべての項目の最上位評価の平均75%以上維持する。[80.0%]	(3) ア 73.8%であったが、肯定的評価は96.5%であった。(○)
	(4) 国際感覚を身につける。	(4) ア 昨年まで3校合同で実施していたオーストラリア語学研修の意義を継続し、本校独自で国内での語学研修および英語での発表機会をつくる。それに向けて事前学習などを実施し、内容の充実を図る。	(4) ア 語学研修の実施継続および英語での発表機会をつくる。	(4) ア 京都語学研修を企画、募集するも最小催行人数に達せず実施見送り(○)

府立金岡高等学校

2 安全安心な学校づくりと環境整備	<p>(1) 安全安心な学園環境を整える ア 通学路など学園内外での安全安心の確保</p> <p>(2) 人権意識の向上</p> <p>(3) 教育相談体制、サポートの充実 ア SCとSSWのケース会議で教育相談支援</p> <p>(4) 地域に支持される学校 ア 生徒が主役の学校づくり イ 学校説明会の充実</p>	<p>(1) ア 警察と連携し、交通安全指導を実施。1年生の通学指導を強化し、通学路での事故を無くす。</p> <p>(2) ア HRや総合的な探究の時間を活用し、人権HR・SNSの利用法研修等を実施することにより、他者を思いやる人権意識の向上を図る。</p> <p>(3) ア SCとSSWのケース会議を年10回開催して学級運営や学習支援をバックアップする。また中学校とも連携する。 また1(2)とも関連させて、SCおよびSSWによる教員の傾聴力向上のための研修も実施する。</p> <p>(4) ア 「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。 イ 学校説明会の内容の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 自転車通学の事故ゼロをめざす。 警察との連携による登校指導などの実施や探究の時間を活用し、交通安全を考えることを通して事故総数をR3より減少させる。[42件]</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断(生徒)「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」 肯定値80%維持をめざす。[87.1%]</p> <p>(3) ア・SCとSSWのケース会議を年10回で開催 ・SCおよびSSWによる研修の実施</p> <p>(4) ア 学校教育自己診断「生徒会等の諸行事において、自主的に運営されている。」生徒の肯定的回答80%以上にする。[77.8%] イ 来校者アンケートの「内容は参考になりましたか」の最上位肯定値80%以上をめざす。[76.5%]</p>	<p>(1) ア 事故総数68件であったが、11/24北堺署員による交通安全指導講演会を1年で実施、雨カッパの着用率をアップするなど取組みを行った。 (○)</p> <p>(2) ア 7/20スマホ・インターネットの安全・安心な使い方講演実施(全学年) 「互いに尊重」肯定値89.5%(◎)</p> <p>(3) ア・ケース会議11回実施 (○) ・SSWによる研修1回実施 (○)</p> <p>(4) ア 自主的運営肯定値80.2% (○) イ 81.3%(○) (学校説明会1/14実施)</p>
3 改革 教職員の働き方	<p>(1) 時間外勤務の削減 ア 月の時間外勤務80時間超の延べ人数の削減 イ 効率的な職場の環境づくり</p>	<p>(1) ア ノークラブデー・ノー残業デーを徹底することにより時間外勤務を削減する。 イ 教職員が効率的な仕事が行える環境を整えるための支援を行う。</p>	<p>(1) ア 令和4年度4月～2月に月80時間超の時間外勤務の人数を昨年度より減少させる。[51人]</p>	<p>(1) ア 28人(◎)</p>